

## 真夏の電力ピークを乗り切るために、家庭でも努力を

ファイナンシャルプランナー 横山佳代子

東日本大震災により、東京電力管内は電力不足に悩まされています。計画停電は実施するのかどうか直前までわからず予定が立てられない、とすこぶる評判の悪さでした。電力需要が電力の供給を上回ってしまうと予期せぬ大停電が起きてしまいますので、計画停電によってそれを回避するというのが目的でしたが、このあたりの周知が今ひとつうまくいかなかったように思います。

夏に向けて、とりあえず計画停電は終了する見通しとなりました。確かに、日中最も暑くなる午後1時から3時の間に、需要を抑えるために今のような計画停電を実施したら、熱中症も懸念されますし、エアコンの使えないオフィスでは仕事になりません。しかしながら、真夏のピークはこのままいくと電力供給能力が大幅に不足されることが予想されています。

このため、真夏の大規模停電を避けるべく、政府は「電力使用制限令」を発動し、大口の需要者（企業）に対してピーク時間帯の電力の使用を強制的に制限させる方針です（ピーク時の最大使用電力を前年比の25%程度削減）。ただし、東京電力の電力供給計画が上方修正されたことを受け、節電目標の数値は引き下げの可能性もあります。

### ■ 電力使用制限令とは

電力使用制限令は電気事業法に基づくものです。この法律によると「経済産業大臣は、電気の需給の調整を行わなければ電気の供給の不足が国民経済及び国民生活に悪影響を及ぼし、公共の利益を阻害するおそれがあると認められるときは、その事態を克服するため必要な限度において、政令で定めるところにより、使用電力量の限度、使用最大電力の限度、用途若しくは使用を停止すべき日時を定めて、一般電気事業者、特定電気事業者若しくは特定規模電気事業者の供給する電気の使用を制限し、又は受電電力の容量の限度を定めて、一般電気事業者からの受電を制限することができる。」電気事業法第27条（電気の使用制限等）と定められています。

発動されるのは1974年の石油危機の時以来。ピーク時の電力需要を抑制し、供給不足で大規模停電が起きることを回避するために発動します。

### ■ 企業の節電計画の目標数値としての措置

—コラムの無断転写・転載などを禁じます。—

Copyright©2011 Skirr Japan Corporation. All Rights Reserved.

石油危機時に電力使用制限令が発動されたのは、行政指導が不十分で企業による節電が思うように進まなかったことに起因していますが、今回はすでに企業で自主的に節電計画を作っています。工場を電力需要の少ない夜間に操業する、業界ごとに夏休みをずらすなどして、電力消費を分散させるようさまざまな案が出されています。大口の企業は、ピーク時の最大使用電力を前年に比べ 25%削減するよう求められますが、強制措置によってこのような目標数値ができたことで、むしろ具体的な節電計画が作りやすくなるともいえます。

#### ■ 家庭の存在感も大きくなっている

家庭に対しては、電力使用制限令のような強制措置がないですが、ならばいつもどおりでよいか、というとそうはいきません。石油危機時と違い、家庭からの電力需要はより多くなっています。今ではエアコンも冷蔵庫も、ほとんどの家にあります。パソコンや全自動洗濯機、食器洗い乾燥機、大型テレビ・・・数え上げたらきりが無いほど、家電に囲まれて生活していますね。販売電力量合計に占める家庭の電力需要（電灯）は3割にものぼり（※）、もはや、企業努力だけでは夏を乗り切ることは難しいのです。

※ 電気事業連合会 2010年度上半期分 電力需要実績（確報）をもとに筆者計算

政府では、中小企業や家庭でも自主的に節電に取り組ませるため、中小企業、家庭、それぞれに具体的な節電努力目標となる数値を定める方針です。骨子案によりますと、家庭・個人はピーク時の最大使用電力を 15~20%削減目標と定めるようです。

#### ■ 家庭でも最大限節電を

資源エネルギー庁「エネルギー白書 2009」・家庭部門のエネルギー消費の動向を参照すると、家庭の中で最も電力を消費するのはクーラーやエアコンで、家庭用電力消費の約 25%を占めています（2007年度）。また、さまざまな家電の待機電力も数が多くなるとあなどれないもの。

真夏のピークに家庭で消費電力を抑えるには、クーラーの利用を極力控える、あるいは設定温度を上げる、使っていない家電のコンセントは抜く、といった対策で一定の効果をあげられるでしょう。

また、勤めている会社の夏休みがいつもよりも長くなるという方は、旅行に出かけてもいいかもしれません。今回の節電は、家計を引き締める目的ではありませんので、景気を冷え込ませないためにもレジャーなどで出費をすることは悪くないと思います。

私は東京に住んでおりますが、毎年、日中エアコンはあまり使いません。個人的に苦手ということもありますが、エアコンなしでも工夫次第では結構しのげるものです。

—コラムの無断転写・転載などを禁じます。—

Copyright©2011 Skirr Japan Corporation. All Rights Reserved.

以下、自分の実践している方法をご紹介しますので、皆さんのできそうな範囲で取り入れられそうなものがあれば挑戦してみてください。

- ・ ぬれたタオルで体を拭きながら扇風機にあたる（気化熱が奪われるので涼しい）
- ・ 冷凍庫に保冷材を凍らせたものを用意し、額や首などにあてる
- ・ 汗をかいて不快なときは、水浴びをする（小さなお子さんに有効）
- ・ 日中遮光カーテンをひき、日陰の常態を作る
- ・ 家事など動き回る仕事は早朝や夕方に行い、最も暑い時間帯は安静にする

また、環境省からも「家庭でできる節電方法」として、7つの具体策を提案しています。こちらも参考にしながらできることから始めましょう。

環境省「家庭でできる節電方法」

<http://www.challenge25.go.jp/setsuden/>

とにかく、この夏の停電回避対策は、日中の電力消費ピーク時に気を配るというもので、寝苦しい熱帯夜にエアコンを絶対使えない・・・といったものではありません。日中の数時間だけ、少しだけ工夫をして電気の使用を抑えることが重要。皆さんの心がけ次第で、乗り切ることが可能であると思っています。